

ダンプ支部第37回定期大会のお知らせ

年間最大の学習・交流の機会

ダンプ支部は十一月十二日(日)、佐野市「あくとプラザ小ホール」で第三十七回定期大会を開きます。

大会は一年に一回、すべての組合員が参加できる重要な機会です。今年の大会では、長年の課題である過積載問題について学習し特別決議を予定しています。ぜひご出席ください。

ダンプ支部の組合員が対象

大会は、みんなの意見を踏まえて方針を決定する年に一回の最も重要な集まりです。日頃組合と関わりの薄い組合員にとって、組合活動を知っていただく絶好の機会でもあります。

過積載問題 改革の気運

今年国会で過積載問題が取り上げられました。砕石業界は積荷規制を段階的に進めています。担い手育成のためにも、いまこそ業界を変えることが求められています。

「必ず出欠の連絡を」

出欠の連絡を十一月六日までに事務所にしてください。今年も昼食代(千円)を用意します。

「運動方針案の特徴」

大会で役員を選出します。自薦、他薦問わず立候補を受け付けます。

委員長一名・書記長一名・書記次長・副委員長、執行委員若干名

日時 11月12日(日)
午前9時30～正午
場所 「あくとプラザ小ホール」
〒327-0525 栃木県佐野市あくと町3084
0283-86-4715



昨年大会の様子

単価(過積載)

東京オリピックに向けて、今後仕事増が見込まれています。しかしダンプの担い手不足は深刻です。若者が就労できる業界にすることは最重要課題です。

砕石組合各社は一〇月から、生コン向け骨材トン「百円以上」の値上げを要請しています。今大会ではこのよう

な状況も踏まえ、単価改善、過積載改善にむけ国会、県議会での問題追及を提起します。

春国土交通省(署名)、夏栃木県、県警(ダンPKヤラバン)、秋警察庁等への要請を基本に現場の実態を訴え、改善を求めます。

背後責任追及 過積載の背後責任追及を検挙現場から求める取り組みを進めます。

荷受業界対策 首都圏の生コン業界など、荷受業界にたいする要請、対策に取り組みます。

労働保険本格的推進 組合員の高齢化にともない労災事故が増えています。全組合員に労災加入をすすめます。一人親方として働く建設職人が増えていきます。労災加入を就労条件とする工事現場も増

えています。建設労災保険の取り組みも広がります。代車から運転手へと、ダンプ業界の就労形態が変化しています。事業所単位で運転手の加入する労働保険(労災・雇用)の加入拡大を強め、今年度中に事務組合設立をめざします。行政指導が厳しくなっている社会保険加入も援助します。

組合員拡大 七〇〇人の支部にすることを目標にします。(二〇月現在六七〇人)組合員との対話を重視し、対象者の掘り起こしのため、随時組合員宅や事業所への訪問活動を行います。

ダンブ以外のトラック、建設職人など加入対象者を広げます。

労働・生活相談 仕事に関係したトラブルだけでなく、私生活における深刻な相談も増えています。県内の労働弁護団と連携し様々な問題の相談に対応します。

また、退職後の生活相談も重要な活動になってきています。

産業廃棄物収集運搬許可申請相談にも取り組みます。

自動車・生命保険推進

損保ジャパン日本興亜、関東自動車共済、全労済を中心とした自動車保険契約拡大をさらに広げます。組合員とその家族が使用する乗用車の保険加入を重視して呼びかけます。

近年多発している自然災害に備えて自然災害共済の取り組みも強めます。

また組合員の医療費増を踏まえて医療保険の取り組みを強めます。

二月から確定申告相談会を開催します。

マイナンバー制度導入によって税務調査の拡大が予想されています。特に消費税の調査が重点になっています。

あらためて自主計算書に基づき自主申告の取り組みを強めます。

組合費前納減額

安定した組合財政の確立、組合員の負担軽減のため、今年度も組合費前納減額を前年度と同じ基準で実施します。

【減額内容】

一年分前納者は組合費一か月分を減額

半年分前納者は組合費二千円を減額

本年一〇月から来年三月までに納める二〇一八年一月分以降の組合費のみを対象とする。

組合費のみを対象とする。

「千人の県本部めざして」 第19回県本部大会開催

一〇月十五日、組合会議室で第十九回栃木県本部定期大会を代議員など三十六人が参加して開催しました。

主催者あいさつで山内委員長は、配布されている各種署名を紹介し、「安保法制、消費税増税などいずれも安倍政権の強権政治に原因がある。今月二十二日の衆議院選挙は野党共闘をすすめて政治を変える絶好の機会。必ず選挙権を行使しよう」と訴えました。

石井書記長は運動方針で、「引き続き千人の県本部をめざしたい。そのためにより組合員の力が発揮できるよう組織再編を大胆に進めたい」とし、具体的に



を進めることを提案しました。討論では各組織の代議員が発言しました。

いずれも厳しい状況のなかでの奮闘が伝わる発言となりました。また、課題となっている執行部の世代交代の一環として、副委員長にダンブ支部とエアケミ運輸支部からあらたに選出されました。議案は満場一致で採択されました。

地元運輸組合元結送大会

一〇月十五日、佐野市にある夢沼運輸で働くドライバーが組合を結成、翌十六日会社に結成通告団交申し入れを行いました。

同社は海上コンテナ、パラセメントなどの輸送をおこなうトラック事業者です。誰も就業規則をみたことがなく運行管理にも様々な問題が指摘されています。

運送会社を取り巻く環境は年々厳しくなっており、組合員らは安心して働ける職場をめざしています。



日祥運輸倉庫争議事件 九人の証人尋問終わる

運送会社日祥運輸倉庫(宇都宮市)で起きた組合員に対する不当解雇、賃金未払事件は、現在宇都宮地方裁判所で裁判が行われています。

九月から一〇月、三回にわたって組合員と会社関係者九人に対する証人尋問が行われました。

九月二〇日に行われた尋問では、組合の準備段階では積極的に参加していながら、組合結成前に突然離脱したドライバーが証人として出廷、離脱後組合員にたいして「お前のタマ(命)を取るといってドライバーもいるぞ」などと脅迫まがいの発言をしていたことも明らかにしました。

一〇月十二日には山岸社長に対する証人尋問も行われました。

山岸社長は組合弁護団の尋問に対して「建交労イコール共産党だ」と思っている「などと証言しました。この発言に、事件の本質が現れています。

線請 282号 県道 改善を要す

東名高速で交通トラブルにより停車中の車両にトラックが追突し、ご夫婦が子供の前で死亡するという痛ましい事故が発生しました。

交通トラブルは全国的に増え問題になっています。藤坂砕石葛生工場から峠を越えて岩舟町小野寺に抜ける県道282号線。狭く急カーブが多い傾斜道路のため、以前から危険道路と指摘されダンブと一般車両のトラブルも起きています。ここ数年トレーラーダンブの増加により一層危険な

状況になっています。

組合員の大澤昭一さんは「慣れているダンブ同士ならいいけど、突っ込んでくるドライバーがいて危ない」。県道沿いにある東成資材の郡土稔さんは「草や樹木で視界が悪いのが問題。もつと手前で対向車を発見できれば待機するなど対処できる」と語ります。

組合では道路を管理する県栃木土木事務所に改善を要請、現地調査を実施してもらったことになりました。

重大事故が起こる前に！



魔のヘアピンカーブ

県砕石組合50周年で 「安全・安心」めざす?

県砕石工業協同組合は九月二十九日、宇都宮市内で創立五〇周年記念式典を開き、青木理事(オーリス社長)は、高齢化、人手不足などの解決に取り組み「県民からは砕石だ」と自慢される業界を目標したい」とあいさつ。安全、安心、

安定を表したロゴも発表しました。ダンブの過積載によって成り立っている業界の現実「は過積載だ！」

県砕石組合は一〇月から人手不足などを理由に、生コン向け砕石の値上げに取り組み、東京都東部生コン協組で運賃含め六

をどう変えていくのか、具体策は何も示されていません。「栃木の日本一は過積載だ！」

ダンブには値下げの動き

百円以上の値上げに「おおむね理解が得られた」と報道されています(左)。

ところが一部組合員には値下げの話が・・・?

生コン骨材値上げへ

約10%、人手不足など対応

県砕石工業協同組合(青木理事)は、生コンクリート組合などに対し、生コンクリート製成用の砕石の引き渡し価格(価格)を100円以上の値上げを要請している。値上げに動くのは3年ぶり。人手不足や砕石の維持・開発費が理由で、2020年の東京五輪などで需要が高まる中、安定供給ができるようにする狙いもある。組合員の企業ごとに取引先と交渉するため、実際の値上げは年明けになりそうだ。伊藤(一之)本部長は2016年度砕石3万トンを出荷した。このため今年から業務委託の約87%を、一方で常用従業員数は10年前に比べ65%減少。生コンクリート製成用の砕石の引き渡し価格(価格)を100円以上の値上げを要請している。砕石工場の協同組合などに値上げを要請している。砕石工場の協同組合などに値上げを要請している。砕石工場の協同組合などに値上げを要請している。

10月19日付 下野新聞

砕石価格が年々高くなる。生コンクリート協同組合の組合員は、生コンクリートの値上げを要請している。組合員は、生コンクリートの値上げを要請している。組合員は、生コンクリートの値上げを要請している。